



祝・浦和消化器内視鏡 クリニック開設

2021年6月1日



尚視会・理事長
共済病院・内視鏡
センター長
原田英明

ていきたいです。

ですが、この浦和という素晴らしい町とともに私たちが成長していきたくです。

できたてホヤホヤのクリニックで至らない点もあるとは思いますが、この浦和という素晴らしい町とともに私たちが成長していきたくです。

「検査後のゆったりとした回復室」をご用意しています。

「清潔なトイレ」「静脈麻酔を使用した苦痛のない検査」

「検査後のゆったりとした回復室」をご用意しています。

できたてホヤホヤのクリニックで至らない点もあるとは思いますが、この浦和という素晴らしい町とともに私たちが成長していきたくです。

「検査後のゆったりとした回復室」をご用意しています。

できたてホヤホヤのクリニックで至らない点もあるとは思いますが、この浦和という素晴らしい町とともに私たちが成長していきたくです。

「検査後のゆったりとした回復室」をご用意しています。

「大腸がんの予防と早期の発見
および治療を行う」です。

大腸内視鏡検査は、皆様つらい検査とお考えでしょうが、安心して楽に検査を受けてもらえるように「リラックスできる空間」「清潔なトイレ」「静脈麻酔を使用した苦痛のない検査」

尚視会の使命は、とにかく

泰志先生です。

腸内視鏡検査に定評のある勝山

オープンしました。院長は、大

和消化器内視鏡クリニックを

ニツク」に続き浦和駅前に「浦

この度「千住・胃と腸のクリ

長・消化器内科医の原田です。

はじめまして、尚視会理事

尚視会のこだわり：第1回

大腸内視鏡検査を受ける際には、すべての患者さんが下剤を飲んで大腸内を空にしないとけません。下剤をすべて飲み終え腸がきれいな状態になるのに早い人でも2~3時間かかります。少しでも快適に過ごしていただけるように「浦和消化器内視鏡クリニック」では下剤を飲んでいただくスペースを**全て個室**としました。

個室内では、iPadで雑誌・映画・ドラマが楽しめるようにしています。Wi-Fiも完備していますので、忙しいビジネスマンの方でも仕事をしながら下剤を飲むこともできるようにしました。



正しい知識をつけてご家族・ご友人を大腸がんから守ろう！

内視鏡検査だより

第1回特集記事 「大腸内視鏡検査は毎年受けないといけないの？」

毎年受けなくていいんです！！



大腸内視鏡検査の適切な検査間隔について、浦和消化器内視鏡クリニック院長の勝山泰志・院長に解説をしてもらいます。

大腸の内視鏡検査を受けたことのある方で、ポリープなどを指摘されていなければ、毎年受ける必要はありません。2〜3年に一度の検査でよいと思えます。しかし、直近の大腸内視鏡検査でポリープを切除された方には、翌年も内視鏡検査を受けることを私はお勧めしています。正直、ポリープ切除後に、大腸内視鏡検査をどれぐらいの頻度で行った方が良いかは、内視鏡医の中でも意見が分かれるところですが、治療をしていない他の大腸粘膜からもポリープができる可能性があることを考えると、翌年にも検査を受けて頂いて、新たなポリープが無ければ、2年に1度、内視鏡検査を受けるのが理想的です。

また、大腸内視鏡の検査を受けたことのない40歳以上の方には、内視鏡検査をお勧めします。

毎年、大腸内視鏡検査をお勧めする方

- ・大腸がんの治療をした方
- ・複数のポリープ切除をした方(数個以上)



勝山先生の飼い猫
保護猫の「ルフレ」君

大腸内視鏡検査をお勧めする方

- ・ご親族に大腸がんの方がいる
- ・40歳以上で検査を受けたことが無い
- ・体重減少や排便異常がある
- ・アルコール、タバコを常用している
- ・1年以上前にポリープを切除した

大腸癌の多くは無症状で進行し、便秘や血便などの症状が出現するのはかなりサイズが大きくなった頃のことが多いからです。

オススメの〇〇！！

今月は、「千住・胃と腸のクリニック」早坂院長より胡蝶蘭？がオススメということです。

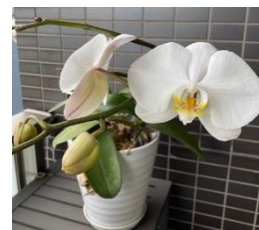
皆さんこんにちは！千住・胃と腸のクリニック 院長の早坂です。開院してからもう少して1年経とうとしておりますが、最近うれしいことがありましたので紹介させていただきます。

昨年の開院祝いに大学時代の同期が有志でプレゼントしてくれた胡蝶蘭がありましたが、花期が終わっても捨てるに忍びず、自宅で育てておりました。だいぶ過酷な環境で育てていたのですが、2週間ぐらい前からふと気づいたら花茎が伸びてきて…ついに蘭の花が咲きました！

1年間いろいろあったなあ…と感傷に浸りつつ、明日からも頑張ろう！と思う今日この頃でした。これからもよろしくお願い致します。

写真:イヤイヤ期真っ盛りの娘と。トウモロコシおいしいですね！

(※注;残渣が残るので大腸検査前には決して食べないで下さい。)



胃腸にやさしい食事情報

第1回特集記事 「胃腸にやさしい食事ってどんなもの」

《ほったらかしサムゲタン風鶏粥》

【材料】(2~3人分)

鶏もも肉 1枚(250g)
米 1合
人参 1/2本
大根 2cm
生姜 1片
にんにく 1片
ニラ 1本
水 適量
塩コショウ 適量
ごま油 少々



夏は冷たい食べ物や冷房によって、ついつい体を冷やしてしまつて、夏なのに風邪をひいたり、なんだかだるくて夏バテ気味になったりしますよね。そんな時におすすりめなのが、体を温める効果が期待される生姜を使ったお料理。

生姜は、火を加えることで「ショウガオール」という血流を促進する働きがある成分が含まれています。冷たい食べ物や冷房などにより、体を冷やしがちな夏の時期は、温かい生姜料理を食べて、体を温めるのがおすすめです。



料理研究家・Y'sさん

・クックパッド
アンバサダー2020
・2020年度
スパイスアンバサダー
・レシピ開発、メディア出演
雑誌などで活躍中

【作り方】

- 1 人参と大根は銀杏切り、ニラはざく切り、生姜は薄くスライス、鶏肉は一口大にカットする。
- 2 鍋にお米、にんにく、生姜、人参、大根、鶏肉を入れ、ひたひたの量の水を入れ蓋をする。
- 3 強火にして沸騰したら火を止め、30分経ったら鍋底からよくかき回し、再度ひたひたに水を注いで蓋をして強火にする。
- 4 沸騰したら火を止め、30分経ったらにんにくを潰して塩で味を調え、ニラとごま油とコショウを加える。

<ポイント>「ショウガオール」のものは、皮の近くに多く含まれているので、皮付きのまま使うのがおすすめです。

そこで今回は生姜をたっぷり使った、参鶏湯風の簡単一品をご紹介します。

胃腸の調子が悪くても、温かいお粥なので消化も良く、栄養をしっかりと摂ることができて、体の芯から温まつて、夏バテ予防効果も期待できるので、是非お試しください。

大腸内視鏡検査を受けられた患者様の感想：



流山市在住の
佐々木紳さん52歳

私は、昨年友人から紹介して頂き、千住 胃と腸のクリニックさんで胃カメラ、大腸カメラ検査を受けました。

最初に、看護師さんから色々説明して頂き、下剤で腸の中を洗浄して、初めての静脈麻酔、これがまた嘘のように秒で意識が無くなって、起きてみれば検査終了。胃カメラを飲み込む苦しさも、大腸カメラ挿入時の違和感も全く無しでした。大腸カメラではポリープを数個取っていただきました。

医師の方々はじめ、看護師さん、受付担当、皆さん凄く感じが、良かったです。因みに、私は糖尿+高血圧で、2ヶ月に1回、採血して頂き、順調に数値も下がって来ました。紹介してもらった友人には感謝しています。

Pick UP:第1回 (気になる人にインタビュー)

記念すべき第1回は「尚視会」理事長・原田英明先生のご紹介です。

私は、以前の所属施設では早期大腸がんの治療を千葉県では一番多くやっていました。なぜ私が大腸内視鏡診療に打ち込み始めたかといいますと、研修医の頃に隣がんで亡くなった父親が入院中だった一言がきっかけであったと思います。

父親が、病床で抗がん剤を点滴しながら「大腸の検査を受けたのだけれど本当につらかった。あれはもう絶対に受けたくない。」と強く言ったのを鮮烈に記憶しています。抗がん剤の治療前には、消化管内視鏡検査は必須ですので父親も当時大学病院で若手医師の大腸内視鏡検査を受けたようです。



研修医時代の原田先生



「趣味は犬の散歩です。なかなか歩いてくれない柴犬を飼っています。」

それから、その半年後には抗がん剤の治療も及ばずこの世を去ってしまいました。当時、内視鏡というものに興味があった私にはただただシヨックではありませんが、内視鏡に人生をかけていくことになったきっかけでもありました。父親の言葉は忘れられないものとなり、痛みのない大腸の検査をしなければと強く意識してきました。いつの日か知らぬ間に早期大腸がんの診療にも携わるようになっていききました。千住と浦和のクリニックでは、痛みが出ないように大腸の検査を日々行っていききたいと日々意識して診療にあたっています。



編集後記

記念すべき第1回号を発刊しました。「尚視会だより」では、皆様の生活・健康・食・時事問題などに触れつつ消化管に関する有益な情報を皆様にお伝えできればと考えています。

今月は、いろいろと問題も孕みつつも東京オリンピックがとうとう開催されそうです。楽しみではある反面、コロナ感染症のリバウンドも気になるころではあります。

私たち医療従事者は、すでにいち早くワクチンの接種をさせていただいております。私も共済病院で2回目の接種を5月初旬には終えました。不安を感じつつドキドキとしながら受けましたが特に大きな副反応もなく接種を終えています。

どのようなワクチンでも一定の割合で副反応はありますが、新たなワクチンですので個人によつてはいろいろと思うところが出るのも致し方ないかと思えます。人類初のワクチンは、イギリスの医師であるジェンナ



愛犬のこてつ君と

ーによつて考案されました(1796年)。現在では根絶されていますが、当時は天然痘が世界中で流行していました。ジェンナーは、牛痘ウイルスに感染した場合には、天然痘にかからないということから牛痘接種による天然痘の予防を発見しました。これが人類初のワクチンと言われています。日本では、佐賀藩医の榎林宗建が嘉永2年(1849年)に牛痘接種を行つています。当時の日本では牛痘を摂取すると「牛になつてしまう」というような流言が巷で流れたようです。

コロナワクチンがどのような効果と不利益を今後もたらしていくのか気になるところではありますが、一刻も早く終息し以前の日常に戻ってほしいと毎日心から願っています。

尚視会・理事長

原田 英明

